



hida

広 報

ひだ

町 木



第16号

肥 田 町
郷づくり委員会
H12. 2. 15発行

年頭のご挨拶



新年あけましておめでとうございます。

町内の皆様にはご家族おそろいで輝しい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年は自治会活動につきまして格別のご理解とご支援を賜りまして誠にありがとうございました。

した。心から厚くお礼申し上げます。

さて昨年を振り返りますと、長びく不況のなか金融、産業界では二十一世紀への生き残りをかけた再編、リストラのあらしが吹き荒れ、年末には失業率が四・九%と過去最悪を記録し、又秋には東海村のウラン加工施設で「あつてはならない事故」である臨界事故が発生するなど暗いニュースに明け暮れ、残念ながら我が国経済は一部に好転の兆しが見え始めたと言われますが、確かな景気回復にはまだまだ厳しい状況を脱していません。

明けて今年には西暦二〇〇〇年、二十一世紀まであと一年を残すのみと云う歴史的にも大きな「節目」の年を迎



えました。

今日この時代に生を受けている私達はさすがに感慨深いものを覚えますと同時に、次世代への橋渡しの責任の様なものを感じるのであります。明るい二十一世紀の足がかりを築く為に、そして活力ある豊かな地域社会や、住み良い郷づくりをする為には、まず地域住民の熱意と努力が何よりも必要と考えます。これからも諸行事の推進に町民皆様の倍旧のご支援を賜りながら微力ではございますが、役員一同努力する所存でございますので尚一層のご協力をよろしくお願い申し上げます。最後になりましたが、町民皆様のご健勝とご多幸を、そして肥田町の益々の発展を祈念申し上げ新年のご挨拶にかえさせて頂きます。

平成十二年一月

肥田町自治会長 辻野 治男

郷づくり講演会

演題 「よりゆたかな明日へ」

長田忠男先生の感動の講和から

成宮 伊蔵

日々報道されるニュースを耳にする時、世はまさに「物に榮えて心に滅ぶ」のたとえ



をそのままに呈しています。

この時、先般の長田先生のお話は私達に「明日に生きるための糧」として大切なものを投げかけていただいたのではありませんか。たかと思ひます。

演台を前にされるや開口一番「百足」の例話に誰しも心を引きつけられたのでした。ムカデが多数の足を一本も取り乱すことなく、駆け廻る姿に強い暗示を与えられました。

また時代の変遷とは言え、現在憂うべき学級や学校崩壊が、その根底は家庭や地域の崩壊にあることを指摘され、また今までの親子の強い絆も「親孝行したい時に親はなし」から「親孝行したくもないのに親は居る」との思想の横行する今日であることに警鐘を打たれました。このような今日に当たり、過去に体験された中から、少年の食前にいろいろな命をいただく有難さや、先祖への感謝をこめた挨拶に深く感動されたこと。また私達の記憶にある藤太郎少年（中江藤樹）の「あかざれ書」にまつわる孝心と母のきびしさのあふれる愛の物語等々。さらに私達は一人だけが幸せにはなれないこと。とりまく周囲、社会が幸せでなければならぬことなど、今日の恵みに「慣れ状態」の私達に振り返ることの一言を投げじていただきました。

講演の概略大要を述べまして、明日の肥田町の為にも、私達ひとり一人の為に、互いに「思いやりの心」を忘れず明日に生きる心を強くした次第です。

福寿会の奉仕作業



年末には、肥田町福寿会のみなさんで、町内・住吉神社・金刀比羅神社・地藏堂・公民館及び、遊歩道花壇の清掃作業が行われました。清々しい気持ちで新年を迎えられることは、たいへんありがたいことです。

ご奉仕のみなさんご苦労さまでした。

もちつき大会



去る12月25日には、例年のように公民館でカンガルークラブと小学生による「もちつき大会」が行われました。ことし収められた、ま新しいホッパのむし米を、れんげでつぶしたり、おじさんの指導で、きねでもちつきをして、たのしいあせを流しました。

おばちゃんたちに、小さくちぎってもらったもちを、きなこでまるめみんなで腹いっぱいいただきました。

郷づくり委員会

伝承事業部



緑 風

月日は満々と水の流れるが如し昭和十八年当町に生をうけ五十余年が過ぎ去りました。

年を重ねる毎に子供の頃が思い出されます。今は立派な歩道が出来た通学路も私達の子供の頃は、六月頃になると麦、菜種、レンゲがはさに積まれ川端に長い列が出来、干し上がると道にむしろを敷いて実にされる光景が新道一面に見られました。農繁期になると村中の人が全員と言っても過言でない位、野良仕事をされる姿があちこちに見られました。秋には学校からお天気の良い日は必ず田んぼに帰りました。子供達にも仕事が生担されていたのです。糊干(かじ)のコモを巻いて農小屋や、即席に藁で作ったひししに入れる手伝いをしました。

毎日忙しく農作業される家族はもちろん地域のおっちゃん、おばちゃんに見守られ、極自然に挨拶を交わして元気に登下校したものです。

自然の恵みを体一杯に受けて過ごした子供の頃とは時代と共に変わりつつはありますが昔ながらの、住民がお互いに支え合い助け合って私達が愛する肥田町に息吹く農村の四季折々の風景、文化、伝統を守り次代を担う若者誰もが住んでいて良かったと言える潤いと安らぎを実感出来る郷になる事を念じております。

肥田町 鵜野栄美子

辰年に生まれて

西暦二千年の節目の辰年に我家では私と息子・孫の三人の辰年生まれが元気でそろって正月を迎えました。めでたいと言う事で元旦の朝三人が有線放送で挨拶をさせて頂きました。

三世代で辰年生まれは私の家だけでした。私が六回目で孫が始めての回り年で三人が揃いました。

めでたい年に当たりましたので、今年は家族全員が健康で何事もなく、又孫三人がすなおで人様に好かれる、明るい子供に育って呉れる事を祈っています。一生の内、三人が揃って回り年を迎えると言う事は、一度しかないと思うで大変めでたいと喜んでいました。

二十一世紀に向かって肥田町の皆さんと共に、幸せで豊かな町になる様お祈りします。

元持 正三

自然と共に生きる！

まちの情報誌「広報ひだ」に掲載のため、遠く故郷を離れ居住しておられる人々に原稿を依頼する中で、その内容の多くに、幼き日のふるさとの豊かな自然の中での遊びを想い、当時の生活の原風景を鮮明な感覚で描写しているものが多く見られる。

昔のわがまちは、周囲を緑一ぱいの竹林や樹木で覆われ、宇曽川堤防の河川敷の森林・畑地をめぐる雑木林では、クリやドングリ・クワの実・ヤブイチゴ。セミやカブトやクワガタ虫、数多い野鳥のすみかなど。広い田園をめぐる素堀りの溝では、カエル・メダカ・ドジョウ・ゲンゴロウなど。先ばいに連れられ小川での魚つかみ、いろいろな野草を



つかつての遊び、親子で摘んだヨモギで、母の自慢のヨモギ団子で舌鼓みをうったこと。夏の夜を時を忘れてのホタル狩りなど、人と自然、生き物が共存して自分たちの成長を大きく育んでくれた「里地」が大きく失われようとしている。

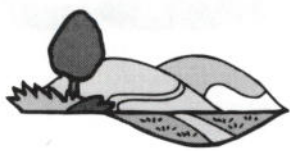
幸い私たちのまちは、昔から限らない豊かな自然に恵まれ、まちの人びとによって守り育てられてきた。

いま、わが国の教育改革の重点施策としてとくに子どもたちが、自然や環境と直接体験によって、自然の恵みを肌身で知り、感受性を育てると共に、いっそう心豊かな人間として育ってほしいと願っている。

“自然は、子どもたちの生命を育くみ、愛の心を育てる。”

私たちは、豊かな風土を愛し、さらに育ていっそう価値ある田園文化を守り後世に伝えたいと思う。

ふれあい広報部



本がすき。

小学2年生 辻野多美子

わたしは、本が大好きです。姉弟の中でも一番本がすきだと思います。妹とお姉ちゃんは、自分で読めるけど、弟はまだうまれたばかりなので読めません。もうすこし大きくなったら読んであげたいです。

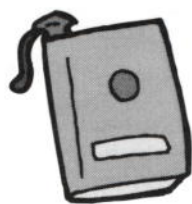
いえにも本は、たくさんあります。だけどいえにある本は、ほとんど読んだので、またかってもらいたいです。

でも本にむちゅうになつていたらおかあさんのこえが聞こえなくなつてしまつておかあさんにおこられます。

それでも本が大好きです。彦ねの市立図書館さんは、いっぱい本があつてすきだけど遠いのでいくのがたいへんです。

だからときどきしかいけません。こうみんかんでかりられるのはうれしいけど、本当は、ひ田町にも、図書館がほしいです。

そしてこうみんかんの本も、もっとふえてほしいと思います。



お誕生おめでとう

なまえ 生年月日 父の名

尚人ちゃん H11・10・2 前田 均さん

智志ちゃん H11・10・27 辻野賢治さん